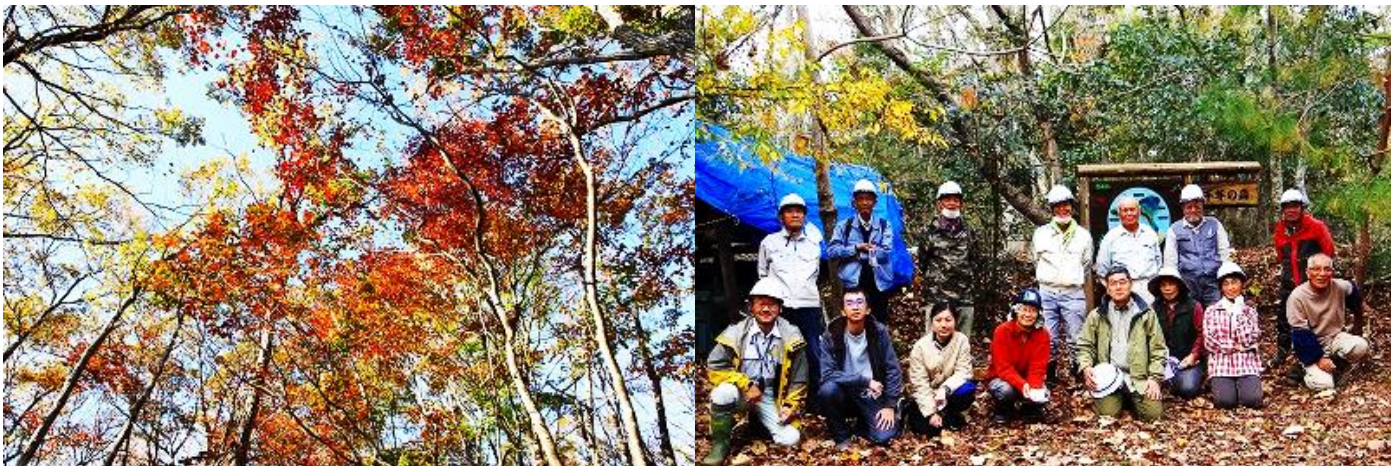


活動の記録

11月23日（月 勤労感謝の日）晴

この日は朝から青空が広がる上天気でした。吹春先生ご夫妻とベトナム生まれの若い研究者ご夫妻のご参加もあったので、国際色豊かでした。

予定の作業は植物保護柵のネット張り、危険木処理その他、植物観察などの各自の取り組みに加え、来訪者の島内案内などがありました。参加の皆さんは深まりゆく秋を堪能された事と思います。（坂本）



参加は吹春夫妻、Nguyen 夫妻をお迎えし、新井通子、伊藤、鶴沢、及川、苅米、久我夫妻、坂本、福島、真鍋、村野の14名でした。

ザ・山男 折れたヤマザクラ大径木処理

昨年の台風で幹が途中で折れたヤマザクラの大木は片付けが進み、直立した幹3m程を残すだけになっていました。しかし、山で一番と目される太さゆえに大型のチェーンソーでも完全には刃が届かないので、周囲から切り込みを入れる作戦を試みましたが、手ごわい相手はどうしても倒れません。現場で木製のくさびを急造して4本打ち込んで切り口が多少広がっただけでした。最後の手段として鋼鉄製のワイヤーを回し掛けにしてチルホールで引き倒す作戦に出ました。

その一部始終を正確な文章で表せませんが、一見の価値ある山男達の活躍振りで、無事に引き倒せた瞬間には居合わせた者が思わず拍手する迫力でした。作業リーダーの苅米さんは山男の中のザ・山男でした。福島さんが切り株の年輪を数えたところ約60年だったそうですから、それ程の古木と言う訳でもありません。生えた場所の条件が良く、生長が早かったのでしょう。（坂本）



チェーンソーも刃が届かず 木製にわか造りのクサビ4本も無力

ワイヤー牽引で轟音たて倒れた樹齢約60年の大木

A surprising and amazing experience

The visiting to Sennen-no-mori forest on Monday was a surprising and amazing experience for me. Compare to the forest in Vietnam and Taiwan (where I only visited rainforest ones), your forest seems to be less dense with more full-grow tree than small ones. Maybe the climate and the density of the herbivore might contribute to this. Before visiting here, due to the season, I did not expect to encounter any reptile which I really love to see. Fortunately, I managed to see one juvenile grass lizard *Takydromus* sp. and one tiger keelback snake *Rhabdophis* cf. *tigrinus*. Beside, for my current research, I'm working on some *Cladonia* lichen and I found some beautiful one here on the bridge connect the island with outside. Further, as a field researcher, I had been to various wild life areas but this was the first time I observed forest management in action. The effort, that your team had put into maintaining the forest as the most natural way, had impressed me. The operation had ticked every aspect of the sustainability of the forest. In order to protect the young trees and bamboos from being eaten by deer and other animal, they are carefully covered by net. Further to prevent the spread of the disease, the old and infected trees are assiduously marked and cut down. (Nguyen Ngoc Hung 氏寄稿)



Cladonia sp



Rhabdophis cf. *tigrinus*

意外で驚くべき経験

千年の森への訪問は、私にとって意外で驚くべき経験でした。ベトナムや台湾の森に比べ、この森は木の密度が低く、大木が多いように見えました。これは、多分、気候と草食動物の密度の影響だと思います。訪問する前は、季節の関係で、私が本当に見たいと思っていた爬虫



Nguyen 夫妻と吹春夫妻

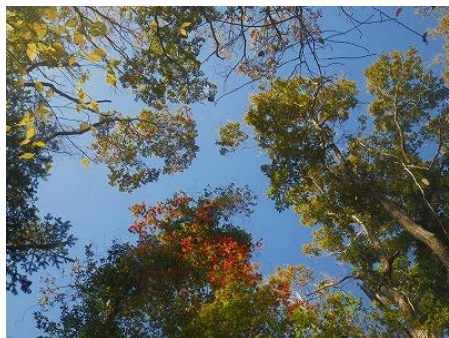
ホテイ岬の湖岸で

類に出会えるとは思っていませんでした。しかし、幸運にも若いカナヘビとヤマカガシに出会うことができました。さらに、現在取り組んでいるハナゴケの研究に関しては、島に渡る橋の上で、美しいハナゴケの一種を見ることができました。私は、フィールドの研究者としていろいろな森林に行きましたが、森林管理の活動を見るのは今回が初めてでした。会の皆さんが、最も自然な方法で森の維持に努力されている姿に感動しました。その活動は、若い樹木や竹をシカなどの食害から守るためにネットで囲んだり、病気の拡大を防ぐために古くて感染した木を伐採したり、森林の持続可能性に関するあらゆる側面に関わるものでした。(訳；真鍋)

Nguyen Ngoc Hung (ホンさん) 現在は、東京理科大学基礎工学部生物工学科、清水公德教授(タオさんの先生)のところの2年契約のスタッフです。ベトナムでは、タオさんとともに、国立の Southern Institute of Ecology, Vietnam で常勤職員として働いていて、そのまま、学位をとるといので、台湾で、遺伝子も用いたトカゲの生物地理の研究で、学位を取得し、理科大のスタッフになった方です。(吹春)

秋の豊英島散策

紅葉が始まった森を、吹春さんご夫妻とタオさんご夫妻、真鍋さんと一緒にゆっくり散策しました。コースは、千年広場から禁断の岬に向かい、祠山を経由してホテイ岬までです。途中でベトナムの森の話の聞いたり、きのこや地衣類、トカゲを探したりしながら、秋の豊英島を楽しみました。残念ながらタオさんご夫妻のお目当てのものは見つからなかったようですが、日本の森の思い出を作っていただけではないかと思います。(福島)



色づき始めた森の天井は碧く輝き



禁断の岬で何を熱心に観察・撮影？



ホテイ岬から見る秋景色



キッコウハグマ(花)



クロヤツシロラン(蒴果)



リンドウ(花)



コショウノキ(蕾)



マンリョウ(実)



シロダモ(実)



カシナガキイムシの穿入



カナヘビ

植生保護柵のネット設置

9月に支柱まで設置した植生保護柵の増設は、残っていたネットを張り終え無事完成しました。苅米さん指揮のもと、これまでの経験を活かして、支柱の天端を結ぶ細ロープにネットを巻きながら編み込んでいく方法を取り、非常にすっきりかつ強度も十分な植生保護柵が完成しました。ほとんどの編み込みと出口の作成に奮闘した鶴沢さんお疲れ様でした。

なお、今回は地下茎の延伸や種子散布を期待して既存ネットに隣接して設置しました。今後どのように植生が回復していくのかに注視したいと思います。次はホコラ山付近に、独立したエリアで設置したいと思います。(伊藤)



新しい植生保護柵は強度もありスツクリ

湖面の銀河かイルミネーションか

島へ渡る吊り橋を少し進んで眼下の湖面を見ると沢山の落ち葉が浮いていました。

全面に浮いている訳では無く、岸寄りの部分に集中していたのは前日の強風で吹き寄せられた為と思われます。黒っぽい水面に強いコントラストの黄色や赤の落ち葉が列をなしているのは夜空の銀河かイルミネーションの様で感動的な光景でした。これを見ただけで来た甲斐があったと思いました。

帰りがけには光線の方向が変わった所為か平凡な風景でしたから、午前中の一瞬の輝きだったようです。(坂本)



豊英湖に輝くイルミネーション？

お知らせ

12月の活動日は 12月6日(日)です。例年12月は紅葉時期に合わせて第1日曜日となっています。

シカ生息調査、森林整備を予定していますが、今年は台風もなく紅葉が一段ときれいですので、ぜひ錦秋の豊英島にお出てください。

9時30分、清和自然休養村（農産物直売所）集合です。

ヘルメット着用をお忘れなく。チェーンソーお持ちの方は持参ください。